in 大阪 2023

近畿「子どもの水辺」交流会

開催結果報告

近畿２府３県から、水辺で活動している小・中学生６０名が参加。一緒に水辺活動を行い、その後交流会を開催しました。

【プログラム概要】開催日：令和5年8月20日（日曜日）

- 午前の部（10:00～12:00）会場：大阪ふれあいの水辺（大阪市都島区中野町四丁目地内）
  水辺活動（生き物観察・水質調査・Eボート乗船・砂地での地形形成）
- 午後の部（13:30～15:30）　会場：PLP会館（大阪市北区天神橋三丁目９－27）
  交流会（水辺の仲間と意見交換）

近畿「子どもの水辺」交流会は、子どもたちに身近な水辺活動を広く発信してもらい、上下流・府県間を越えて「水辺」に関わる近畿の皆さんの交流を深め、地域ぐるみの水辺活動の継続・広がりを共につくり、水辺を守り育てることを目指しています。

河川基金 公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています

主催/近畿「子どもの水辺」交流会実行委員会
共催/近畿「子どもの水辺」交流協議会、「私の水辺」推進協議会、おおさか環農水研 生物多様性センター

子どもたちが交流会で感じたこと

○生き物観察

- ✓ クサガメが外来種とは知らなかった。
- ✓ 魚が大きかった。外来種とか、いろいろな魚が知れて面白かった。
- ✓ カワアナゴがこんなにでかくなるんだと思った。
- ✓ 大きなオオクチバスがいて、明石川ではほとんど見ないのに、初めて見て、「大阪にはこんなに外来種がいたんだな」と思った。
- ✓ カメが食中毒菌を持っているのをはじめてしりました。

○水質調査

- ✓ 薬で水がきれいか汚いかを知れることがすごかった！！
- ✓ 水道水にみそ汁を少しいれただけで、パックの色がすごく汚い反応になったことに驚きました。みそ汁は汚いものじゃないから工場排水を入れるとどうなるのでしょうか？
- ✓ みそ汁が少し入っただけで、海が汚れたり魚が住みにくくなってしまったりすることを知って、食べ残しはいけないと思った。

○Eボート乗船

- ✓ 最初は乗るのが怖かったけど、乗ってみるとすごく楽しかった。漕ぐのはすこし大変だった。
- ✓ ボートをこぐのが難しかったけど、川の魚をみれてよかった。
- ✓ あんな重そうなボートもみんなで力を合わせれば動かせた。
- ✓ Eボートが楽しかった。漕ぐのも難しかったけど頑張れたのがうれしかった。

○砂地の地形形成

- ✓ 川は降った雨があふれてどんどん流れるうちに削れて、今のようになることが分かった。
- ✓ 学校で習った川のはたらきが実際に目の前で行われていて面白かった。
- ✓ 昔はまっさらだったはずだから、水や自然の力は偉大だと思った。習ったことを実際に目にして、実験して理解が深まった。
- ✓ いつも増水した後に環境が変わっているから土砂で地形が変わっているんだなと思った。

○全体を通じて

- ✓ 近畿水辺交流会でいろいろなことが分かった。ボートの漕ぎ方、水質調査で水が汚くなること、魚がいなくなるから水辺をきれいにしよう。
- ✓ 近畿各地の他団体の活動の様子を知ることができてよかった。

大学生スタッフの感想

- ✓ 初めてのボランティアでしたが楽しかったです。簡単な魚の説明をするだけでしたが人に教えることの難しさを体感できました。また、さまざまな方々とお話しすることで自分の知識も広げることができ、とても勉強になりました。
- ✓ 初めての気づきや経験をできたのでとてもいい機会になったと思います。
- ✓ 全体的には、各地域の子どもたちが集まって意見交換や発表をしている場面がさまざまな考えや主張がとびかっていてとてもいい時間だなと思いました。

次回近畿「子どもの水辺」交流会 in 滋賀 2024 開催のご案内

琵琶湖周辺にて、令和7年（2025年）1～2月頃に交流会の開催を予定しています。
皆さんの水辺活動を通しての成果や、気付いたこと、楽しかったこと、大切にしたいと思ったことなどを発表し合い、交流を大いに深めましょう。
詳細は来年度にお知らせします。多くの子どもたちの参加をお待ちしています。

水　辺　活　動　体　験

生き物観察（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ:生物多様性センター）

ギンガメアジ

カワアナゴ

大阪ふれあいの水辺に生息している生き物を定置網や投網で採取し、どのような生き物が棲んでいるのか、生物多様性センターの職員と近畿大学の学生さんの解説により学習しました。

当日採れた生き物はコイやオイカワなどよく見られる魚のほか、ギンガメアジやカワアナゴ（子どもたちの一番人気！）などの川と海を行き来する魚、カムルチーやオオクチバスなどの外来種、また魚類以外ではクサガメやクロベンケイガニが採取され、子どもたちも興味深く観察していました。

水質調査（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ:共立理化学研究所）

大阪ふれあいの水辺の水質をパックテストというCOD（水の汚れの指標）を測ることができるキットを使って調べました。また東京の川（多摩川）との水質のちがいや、身近なもので水が汚れることを、共立理化学研究所の社員さん（当日わざわざ東京からお越しいただきました）の解説により学習しました。

子どもたちの環境に対する意識が高く、意見交換や質問も積極的に行っていて、「自分の身近な水環境をよくしたい。」という気持ちがすごく伝わってきました。

砂地の地形形成（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ:河合典彦さん）

大阪ふれあいの水辺の広い砂地を使って小学校5年生の理科で学習する「流れる水のはたらき」を実験しました。降った雨がやがて川となって地形がつくられていく様子のシミュレーションをコーディネーターの解説を聞きながら見学しました。

途中で水をくみ上げるポンプにトラブルがあり、大学生スタッフのバケツリレーで水を運ぶこともありましたが、目の前で繰り広げられるダイナミックな実験を通しての学習にとても興味深い様子で観察していました。

Eボート乗船（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ:摂南大学エコシビル部）

大阪ふれあいの水辺でEボート（10人乗りのゴム製ボート）の乗船体験を摂南大学エコシビル部の学生さんの指導により行いました。

はじめは子どもたちも慣れない様子でしたが、体験が終わるころには操作も上手になり、下船を名残惜しそうにしていました。また保護者や引率者も体験し、大好評でした。Eボート乗船時にはライフジャケットを着用することで、水辺活動の時には安全面に気を付ける必要があることも学べたようです。

交　流　会

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ:北野大輔さん・小林慧人さん

はじめに参加者が日頃行っている活動の発表を行い、その後「水辺の宝物」についてみんなで考えました。

水辺のお宝ランキング

Aグループ

1位
- 生き物
- 生き物をとること
- 川がきれいなこと

2位
- 川でのあそび
- 生き物をとって食べる

3位
- 食物連鎖

Bグループ

1位
- 水
- 生態系
- 生き物と暮らせる環境

2位
- 絶滅危惧種
- 多様性

3位
- プランクトン

コーディネーターより

それぞれのグループで決めた「水辺のお宝」には、交流会に集まったメンバーみんなの意見が含まれています。今後、活動をするときに、ぜひ思い出してほしいと思います。

また、残念ながらこの中に入らなかった意見もたくさんありますが、それらは決して間違った意見ではありません。普段、水辺で活動していて、「自分自身のお宝」があるみんなは、交流会で決めた「みんなのお宝」と、「自分自身のお宝」の両方を大事にしてほしいと思います。また、今回初めて水辺で活動したみんなは、「みんなのお宝」を大事にすることはもちろん、今後、「自分自身のお宝」を見つけていきましょう！